

鉄道唱歌「JR 国府津駅」歌詞の変遷

7組 斎藤 良夫

JR東海道線、御殿場線「国府津駅」前に鉄道唱歌の歌碑があります。国府津駅開業100年の記念碑で、「汽笛一声---」で知られる初出の鉄道唱歌「地理教育 鉄道唱歌第一集」の十二番が刻まれています。その後、鉄道の延長、発展とともに鉄道唱歌が何編も作られました。そこで、国府津駅を中心にした歌詞の変せんを紹介します。

初出は明治33年5月。「国府津おるれば馬車ありて----」と歌の中にあります。が、唱歌の出る二か月前に馬車鉄道は電車に切り替えられてありませんでした。明治42年の「東海道唱歌汽車」の中に「国府津に名高き蜜柑山----」とあります。この頃、国府津ばかりでなく周辺地域にみかんを栽培する者が増えてきたため、名前を「相州蜜柑」と統一して呼ぶようになったそうです。ことし5月に国府津駅の発車メロディーが童謡「みかんの花咲く丘」になりました。作曲家の海沼実氏が目にしたみかん畑のルーツが明治30～40年代にあったのです----。

2022年10月14日は、わが国の「鉄道開業150年」の記念日です。この記念日をにらんで鉄道唱歌をアルバムにしました。それぞれの唱歌には各駅と鉄道周辺の風景や産業などがうたわれており、歌で“地方の歴史”が学べます。鉄道唱歌の考察には、親子二代の図書館長で高校時代の同級生、石井敬士氏に大変お世話になりました。石井氏に厚く御礼申し上げます----。それでは、また----。

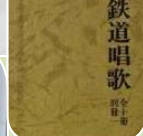
完

12 国府津おるれば馬車ありて
酒匂小田原遠からず
箱根八里の山道も
あれ見よ雲の間より
いであはくぐるトンネルの
前後は山北小山駅
今もわすれぬ鉄道の
下ゆく水のおもしろさ
明治33年

11 国府津に名高き響柑山
枝に黄金の玉満ちぬ
酒匂小田原打ち過ぎて
熱海へ行くはここよりぞ
山北出でて小山まで
行くにばくぐる七箇所の
明治42年

10 国府津おるれば電車あり
小田原熱海行くもよし
箱根八里の山道も
あれ見よ雲の間より
昭和4年

9 行けよ南へ国府津よ
電氣列車の熱海線
小田原よりは電車にて
箱根の山に入りぬべし
21 音に聞えし十二湯
中にも湯本、塔の沢
春は桜の小湯谷
瑠羅を登るケーブルカ



鉄道唱歌 歌詞の変せん



国府津駅「鉄道の日」(10月14日)に向けて
企画展を準備中



乗降客のエピソード
めり絵展 写真展
記念「飾りバン」



「鉄道開業150年」キャンペーン(2022年4月~2023年4月)のため
JR 全駅に展示中の記念ポスター

ことし8月にオープンした
国府津駅西側ローガー